

2021. **7**
No. **210**

調査レポート

県内勤労者の消費・貯蓄動向 ～第65回くらしのアンケートから～

要	約		1
1	家計の状況		3
2	耐久消費財の購入状況		4
3	外食		6
4	貯蓄		7
5	ローン等の利用		8
6	夏季ボーナス		9
7	お中元		11
8	夏休みの過ごし方		13



山梨中央銀行

要 約

1. 家計の状況

- 1年前と比べた暮らし向きは、「良くなった」が11.0%、「悪くなった」が25.6%、「変わらない」が63.4%となった。この結果、「良くなった」から「悪くなった」を引いた差は△14.6。感染症の収束時期が見通せないなかで、先行きに対する不透明感を払拭できず、勤労者の厳しい生活実感が反映された結果となっている。
- 家計上の悩みは、「収入の伸び悩み」が最も多く、以下、「税金負担増」、「物価上昇」の順。

2. 耐久消費財の購入状況

- 耐久消費財の普及状況は、「スマートフォン」、「パソコン」、「ETC」の順。
- 今後半年以内に購入希望のある耐久消費財は「4K・8Kテレビ」が最も多く、以下、「スマートフォン」、「パソコン」の順。

3. 外 食

- 外食は、毎月1回以内の利用が62.7%で、昨夏(37.9%)と比較すると24.8ポイントの大幅な上昇。
- よく利用する店舗(3項目以内)は、「ファミリーレストラン」が最多で、以下、「回転寿司」、「中華料理・ラーメン店」の順。

4. 貯 蓄

- 平均貯蓄額は498万円で、現在利用している金融商品は、「銀行預金」、「ゆうちょ銀行貯金」、「生命保険」の順。今後増やしたい金融商品は、「銀行預金」、「ゆうちょ銀行貯金」、「投資信託」の順。
- 貯蓄する際重視する点は「元金の保証があり安心」が最多で、以下、「預け入れ引き出しが自由」、「利回りが良い」の順。

5. ローン等の利用

- ローン等の利用者は28.2%で、平均借入額は953万円。
- 利用目的は「土地・住宅の購入」が最も多く、以下、「自動車・家電品の購入」、「教育資金以外の生活資金」の順。
- 借入先は「銀行」が最も多く、以下、「月賦・クレジット会社」、「政府系金融機関」の順。

6. 夏季ボーナス

- 夏季ボーナスは、「減りそう」が「増えそう」を上回った。依然として新型コロナウイルス感染症の影響がみられるなか、今夏のボーナス支給について厳しい見方をしている様子が窺われる。
- 平均手取り予想額は39万3千円。使いみちは「貯蓄」が最も多く、以下、「買物」、「ローン返済」の順。

7. お 中 元

- お中元を贈る予定者は、全体の 31.2%。
贈る件数は「2 件以下」が最も多く、平均件数は 2.7 件。
- 1 件あたりの単価は、「3,000 円程度」と「5,000 円程度」が最多。平均単価は 3,881 円（昨夏 3,553 円）、平均予算総額は 10,478 円（同 10,194 円）と、ともに昨夏に比べて増加。
- 贈りたい商品は「ビール」（含むビール券）が最多で、以下、「ハム」、「果物」、「食用油」の順。

8. 夏休みの過ごし方

- 「特に予定なし」が最も多く、以下、「日帰り旅行」、「国内宿泊旅行」、「帰郷」、「スポーツ・健康づくり」、「海外旅行」の順。
- 夏休み・盆休みの過ごし方について、「予定なし」と回答された方のうち 60.6%は新型コロナウイルス感染症の影響があったと回答。

（特別調査）感染収束後の動向

特別調査として、新型コロナウイルス感染拡大の状況が収束した後、個人がどのような行動を希望しているかについて調査を実施。

- 収束後にやりたいことは、「国内旅行」、「テーマパーク等へのお出かけ」、「外食」、「海外旅行」の順。感染拡大が収束した折には、気兼ねなく旅行に出かけたいという傾向が窺われた。

● 調査実施要領

調査対象：インターネット調査会社にモニター登録されている県内の勤労者 536 名

調査方法：調査会社モニターあての Web アンケート調査

調査時期：2021 年 6 月上旬

〈 回 答 者 内 訳 〉

内訳	項 目	回答者数	構成比
年 代 別	20 代	105人	19.6%
	30 代	108	20.1
	40 代	158	29.5
	50 代 以 上	165	30.8
家 族	既 婚	313	58.4
	未 婚	223	41.6
性 別	男 性	337	62.9
	女 性	199	37.1
合 計		536	100.0

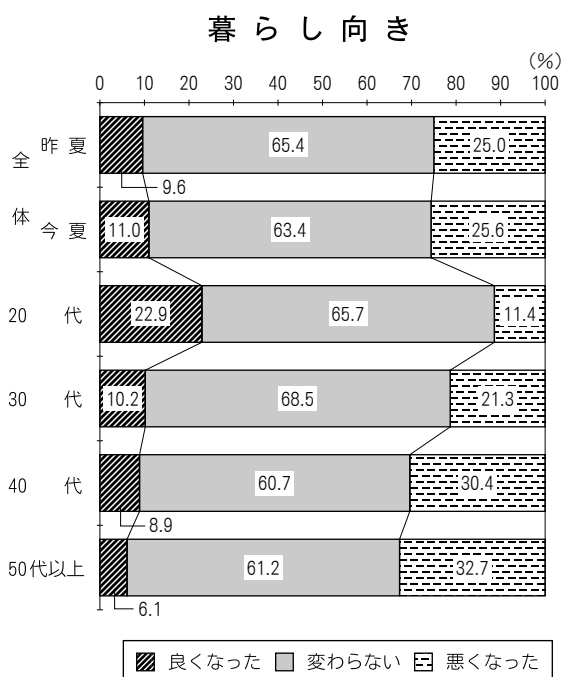
1 家計の状況

生活実感は悪化の傾向が続く

1年前と比べた暮らし向きは、「良くなった」が11.0%、「悪くなった」が25.6%、「変わらない」が63.4%となった。この結果、「良くなった」から「悪くなった」を引いた差は△14.6となった。

県内景気は、機械工業で比較的堅調な動きがみられる一方、新型コロナウイルス感染症の影響で地場産業や非製造業では厳しい状況が続いている。ワクチン接種が広がりつつあるものの、感染症の収束時期が見通せないなかで、先行きに対する不透明感を払拭できず、勤労者の厳しい生活実感が反映された結果となっている。

年代別にみると、20代では「良くなった」の回答比率（22.9%）が「悪くなった」の回答比率（11.4%）を上回った。一方、30代以上では「悪くなった」の回答比率のほうが高く、また、年代が高くなるに連れて比率も上昇するなど、主に中・高年層で暮らし向きの厳しさを強く感じている様子が窺われる。



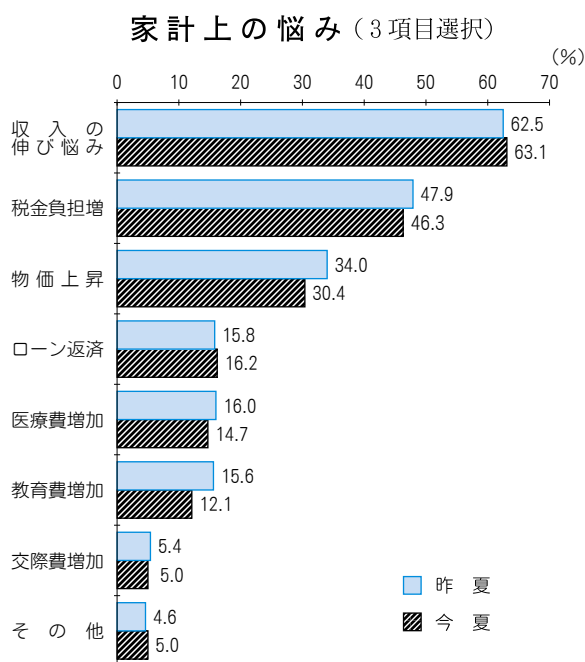
家計上の悩みは「収入の伸び悩み」が最多

家計上の悩み（3項目選択）は、「収入の伸び悩み」が最も多く、以下、「税金負担増」、「物価上昇」と続いた。

上位項目をみると、「収入の伸び悩み」が回答比率63.1%で引き続き1位となった。また、2位の「税金負担増」(46.3%)、3位の「物価上昇」(30.4%)とともに順位の変動はなかった。昨夏と比較すると、「収入の伸び悩み」(+0.6ポイント)が上昇した一方、「物価上昇」(△3.6ポイント)、「税金負担増」(△1.6ポイント)は低下した。

上記以外の項目をみると、「ローン返済」の比率が上昇した一方、「教育費増加」、「医療費増加」、「交際費増加」は低下した。

また、年代別にみると、どの年代においても、1位「収入の伸び悩み」、2位「税金負担増」、3位「物価上昇」で、全体と同じ結果となった。



2 耐久消費財の購入状況

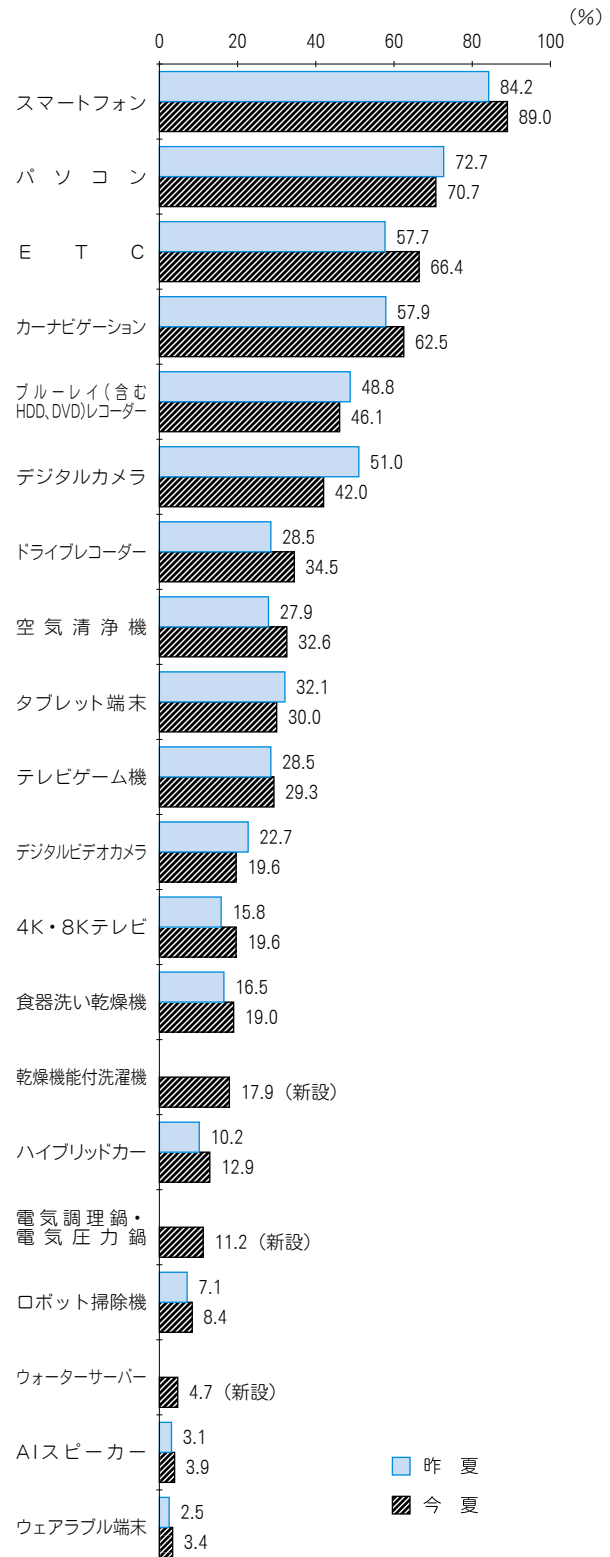
スマートフォンの普及率が9割に

耐久消費財のうち、主要家電品など20品目についてその普及状況をみると、「スマートフォン」(89.0%)、「パソコン」(70.7%)、「ETC」(66.4%)の順となった。

昨夏と比較すると、「スマートフォン」(+4.8ポイント)の比率が上昇した一方、「デジタルカメラ」(△9.0ポイント)、「デジタルビデオカメラ」(△3.1ポイント)、「パソコン」(△2.0ポイント)の比率は低下した。また、年代別の普及率をみると、「スマートフォン」はすべての年代で普及率が85%以上となっているが、「パソコン」は年代が低いほど普及率が低下しているほか、「デジタルカメラ」、「デジタルビデオカメラ」も20代で低い普及率を示している。このことから、若年層では多機能なスマートフォンに役割を集約する傾向が強まっていると考えられる。

なお、今回新設した3項目についてみると、乾燥機能付洗濯機が14位(17.9%)、電気調理鍋・電気圧力鍋が16位(11.2%)、ウォーターサーバーが18位(4.7%)となった。

耐久消費財の普及状況

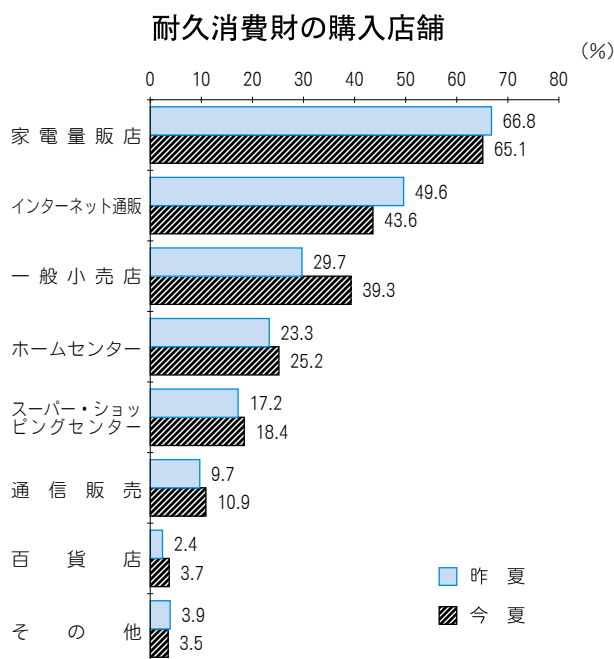


店頭での購入比率が上昇

耐久消費財を購入した店舗（複数回答）は「家電量販店」が最も多く、以下、「インターネット通販」、「一般小売店」、「ホームセンター」、「スーパー・ショッピングセンター」の順となった。

上位項目をみると、「家電量販店」は、2位の「インターネット通販」を21.5ポイント上回っており、耐久消費財が主に家電量販店で購入されている様子が窺われた。また、「インターネット通販」は、20代、30代の利用率が各々36.4%、38.6%であるのに対し、40代、50代以上は各々48.7%、46.3%となっており、年代が高い方が利用率も高いという特徴がみられた。

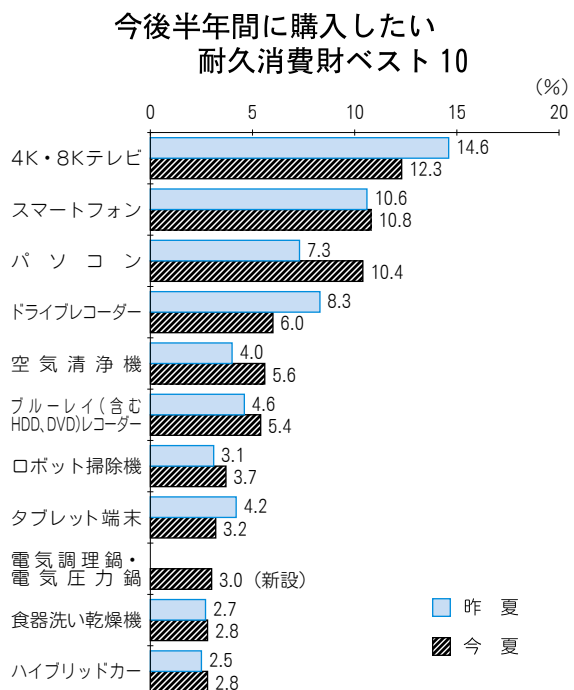
昨夏との比較では、「インターネット通販」の比率が6.0ポイント低下した一方、「一般小売店」が9.6ポイント上昇したほか、「ホームセンター」、「スーパー・ショッピングセンター」、「百貨店」などの比率も上昇した。昨夏の調査は緊急事態宣言解除後、外出自粛の気運が高まっていた時期であったことから「インターネット通販」の比率が高まっていたが、今夏は店頭に足を運び、購入する傾向が窺われた。



購入希望は「4K・8Kテレビ」が最多

今後半年以内に購入希望のある耐久消費財（複数回答、3品目以内）をみると、1位は「4K・8Kテレビ」で、以下、「スマートフォン」、「パソコン」、「ドライブレコーダー」の順となった。

年代別にみると、1位は20代が「スマートフォン」、30代が「パソコン」、40代以上が「4K・8Kテレビ」となった。その他の品目をみると、「ロボット掃除機」、「食器洗い乾燥機」は年代が低くなるほど比率が上昇している。また、今回新設した「電気調理鍋・電気圧力鍋」や「乾燥機能付洗濯機」も20代、30代で高い比率を示している。共働き世帯が増加傾向にあるなかで、家事の効率化を図る「時短家電」の購入意欲が、特に若い世代で高まっている様子が窺える。



3 外 食

外食の利用率が大幅に上昇

家族での外食の利用状況をみると、全体の62.7%が毎月1回以上利用している。昨夏(37.9%)と比較すると、24.8ポイントの大幅な上昇となった。

内訳をみると、「ほとんどしない」が37.3%と最多で、以下、「月2～3回」(27.0%)、「月1回」(18.3%)、「6回以上」(8.8%)、「4～5回」(8.6%)となっている。

昨夏は新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、外食利用が大幅に低下したが、山梨県内の飲食店の多くがグリーン・ゾーン認証を取得し、徹底した感染対策を行っていることから、利用率の改善につながったものと考えられる。

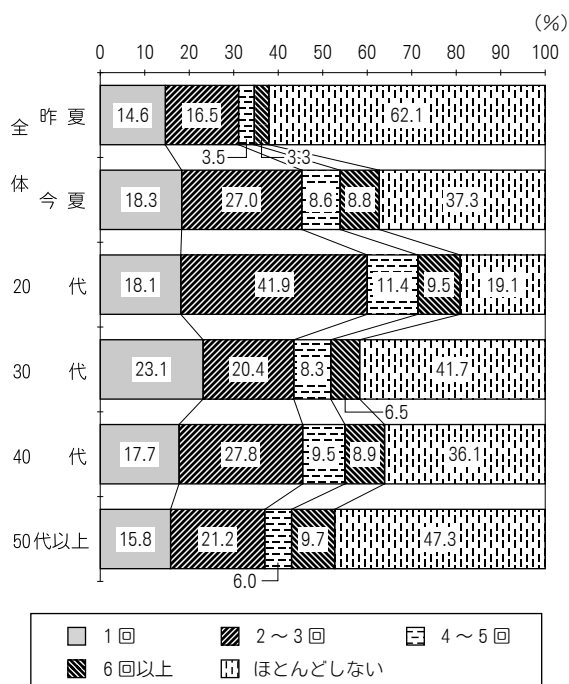
利用店舗はファミリーレストランがトップ

よく利用する店舗(3項目以内)は、「ファミリーレストラン」が最多で、以下、「回転寿司」、「中華料理・ラーメン店」、「ファストフード」と続いた。

昨夏2位であった「回転寿司・焼肉」について、今夏は「回転寿司」と「焼肉店」に分けた結果、「回転寿司」(44.2%)が2位、「焼肉店」(14.8%)は5位となった。

なお、今回新設した「カフェ」(12.7%)、「居酒屋」(11.2%)が一定の支持を集めた一方、「その他」の比率は昨夏の7.7%から3.9%へと3.8ポイント低下した。このことから、昨夏までの「その他」の回答には「カフェ」、「居酒屋」が多く含まれていたと考えられる。

外食の利用回数(1か月当たり)



よく利用する外食店舗(3項目選択)

	昨夏	今 夏				
	全体	全体	20代	30代	40代	50代以上
ファミリーレストラン	46.3	49.8	59.6	50.0	49.4	43.9
回 転 寿 司	38.6	44.2	48.1	41.7	43.0	44.5
中 華 料 理・ ラ ー メ ン 店	25.4	33.3	27.9	31.5	36.7	34.8
ファストフード	33.1	30.5	35.6	38.0	29.1	23.8
焼 肉 店	38.6	14.8	21.2	14.8	13.3	12.2
カ フ ェ (新設)		12.7	26.9	13.9	10.1	5.5
和 食 専 門 店	18.4	12.5	8.7	11.1	10.1	18.3
居 酒 屋 (新設)		11.2	9.6	5.6	13.9	13.4
洋 食 専 門 店	10.7	7.5	10.6	7.4	8.2	4.9
そ の 他	7.7	3.9	1.0	3.7	7.0	3.0

4 貯 蓄

平均貯蓄額は498万円

現在の貯蓄額の平均額は498万円となった。貯蓄額の分布をみると、「100万円以下」が最多で、以下、「201万円～300万円」、「101万円～200万円」・「2,001万円以上」（同順位）、「401万円～500万円」、「1,001万円～1,500万円」、「301万円～400万円」、「801万円～1,000万円」の順となった。

利用している金融商品（複数回答）は、「銀行預金」が85.6%と最も多く、以下、「ゆうちょ銀行貯金」、「生命保険」、「個人年金」、「株式」、「投資信託」の順となった。

年代別に利用率をみると、「銀行預金」は30代以上で8割超となっている。また、「株式」は年代が高くなるに連れて利用率が上昇している。

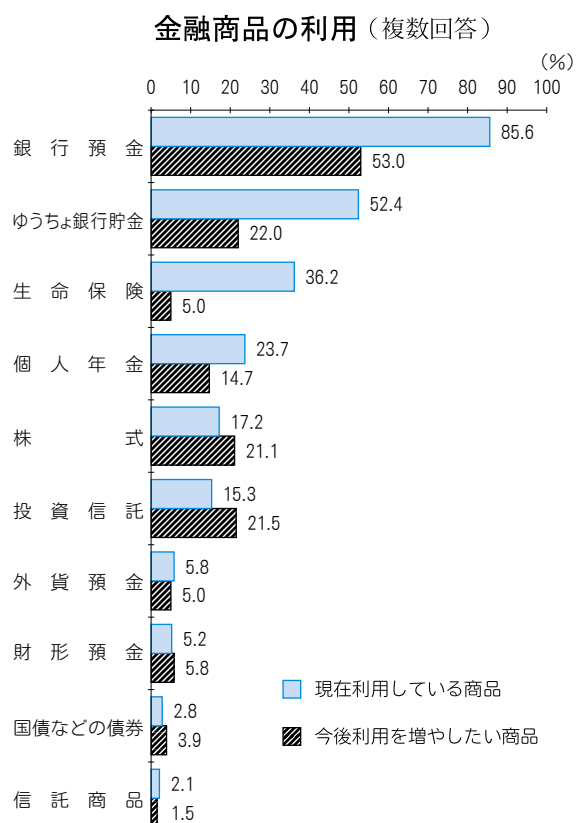
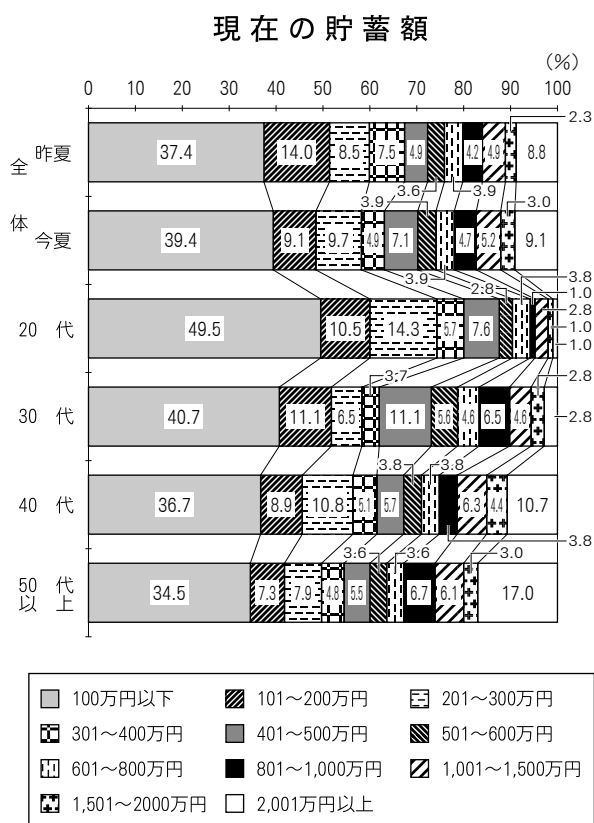
今後増やしたい金融商品も銀行預金が最多

今後増やしたい金融商品（複数回答）は、「銀行預金」が最多で、以下、「ゆうちょ銀行貯金」、「投資信託」、「株式」、「個人年金」の順となった。

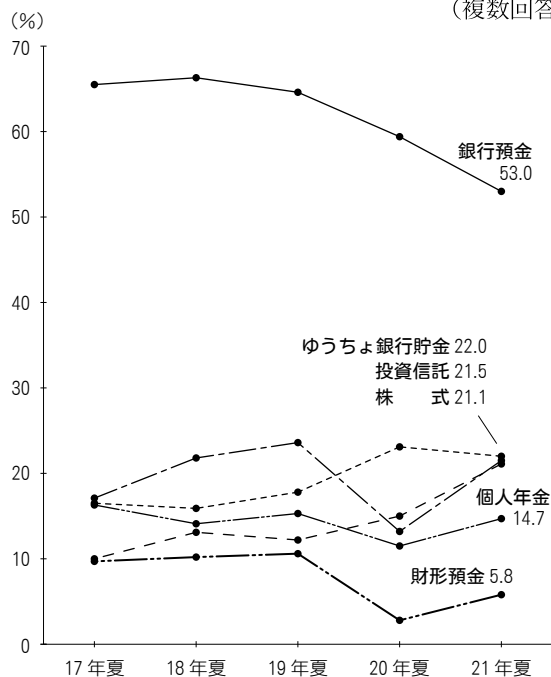
年代別にみると、1位はすべての年代で「銀行預金」、2位は40代が「投資信託」となっている以外は「ゆうちょ銀行貯金」となった。

貯蓄をする際、重視する点（3項目選択）は、「元金の保証があり安心」が最多で、以下、「預け入れ引き出しが自由」、「利回りが良い」、「値上がり期待できる」、「利用金融機関が自宅から近い」の順となっている。

年代別にみると、1位が20代で「預け入れ引き出しが自由」、30代以上は「元金の保証があり安心」となっている。2位は40代で「預け入れ引き出しが自由」となった以外は、「利回りが良い」となっている。



今後増やしたい金融商品の推移
(複数回答)



貯蓄する際重視する点 (3項目まで選択)

	全体	20代	30代	40代	50代以上	昨夏順位
元金の保証が安心	51.9	34.3	53.7	55.7	58.2	1
預け入れ引き出しが自由	44.4	51.4	41.7	42.4	43.6	2
利回りが良い	43.5	47.6	44.4	38.0	45.5	3
値上がりが期待できる	26.7	37.1	30.6	25.3	18.8	4
利用金融機関が自宅から近い	14.4	22.9	14.8	10.1	12.7	5
利用金融機関のサービスが良い	10.8	18.1	7.4	13.3	6.1	6
利用金融機関が勤務先から近い	3.4	5.7	3.7	3.2	1.8	7
勤務先が利用金融機関と取引している	2.2	1.0	1.9	2.5	3.0	9
利用金融機関に友人、知人がいる	2.1	1.0	4.6	1.9	1.2	8
利用金融機関が集金にきてくれる	0.9	1.0	0.0	1.9	0.6	10
その他	1.3	1.9	0.9	1.9	0.6	—

5 ローン等の利用

平均借入額は953万円

ローン等の利用状況をみると、利用者は28.2%で、平均借入額は953万円となった。

利用目的(複数回答)は、「土地・住宅の購入」が最も多く、以下、「自動車・家電品の購入」、「教育資金以外の生活資金」と続いた。昨夏と比較すると、「土地・住宅の購入」の比率が上昇した一方、「教育資金以外の生活資金」、「旅行・レジャー」は低下した。

一方、借入先(複数回答)は、「銀行」が最も多く、以下、「月賦・クレジット会社」、「政府系金融機関」、「銀行以外の金融機関」の順となった。昨夏と比較すると、「銀行」の比率が上昇した反面、「月賦・クレジット会社」、「銀行以外の金融機関」、「勤務先」、「政府系金融機関」は低下した。

これらを年代別にみると、ローン利用者の割合は年代が上がるほど高くなっており、平均借入額は、20代523万円、30代1,471万円、40代1,053万円、50代以上785万円となった。

また、利用目的は、20代で「土地・住宅の購入」・「自動車・家電品の購入」・「旅行・レジャー資金」(同順位)、30代以上で「土地・住宅の購入」がそれぞれ最多となっている。なお、借入先は、20代で「月賦・クレジット会社」、30代以上では「銀行」が1位となっている。

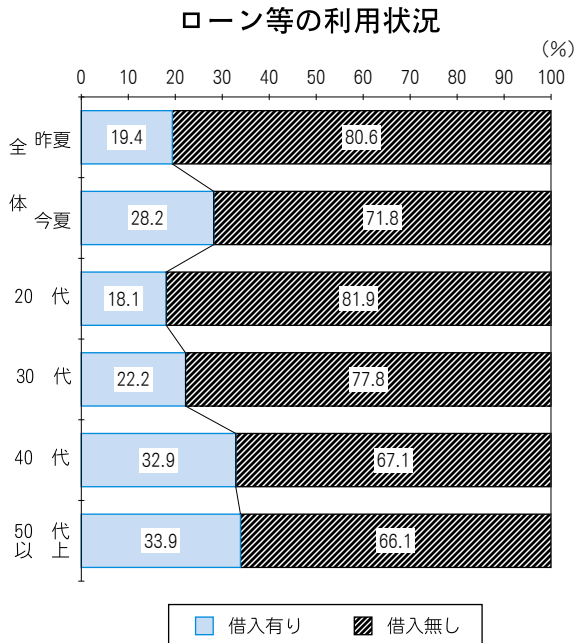
6 夏季ボーナス

手取り額は減額が増額を上回る

昨夏と比べた今夏のボーナス（手取り額）の予想は、「増えそう」が8.0%、「減りそう」が34.2%となり、引き続き「減りそう」が「増えそう」を上回った。

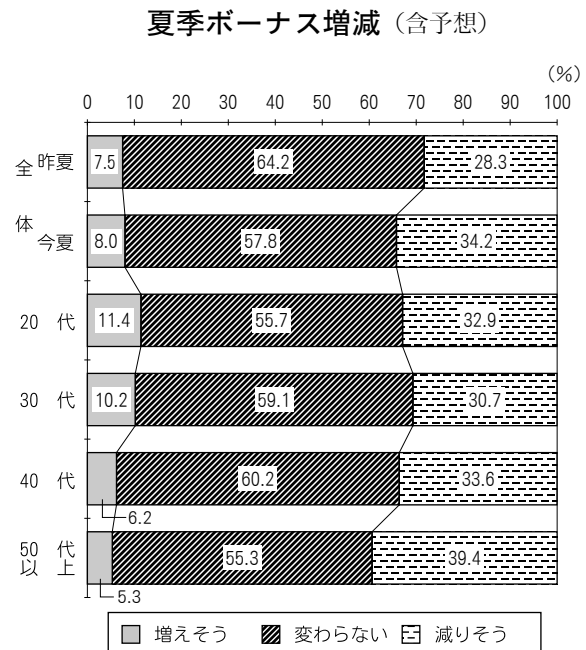
両比率の差（「増えそう」－「減りそう」）は、△26.2と、昨夏の△20.8から5.4ポイント悪化した。依然として新型コロナウイルス感染症の影響がみられるなか、今夏のボーナス支給について厳しい見方をしている様子が窺われる。

なお、年代別にみると、すべての年代で「減りそう」の比率が「増えそう」の比率を上回った。昨夏との比較では、すべての年代で「減りそう」の回答比率が上昇しており、特に20代、50代以上で各々12.1ポイントの大幅な上昇となっている。



ローン等の借入れ先・利用目的 (複数回答)

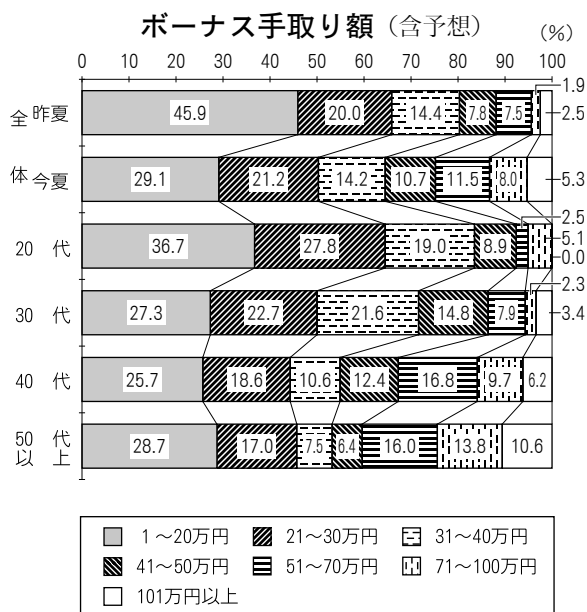
(%)						
		全体	20代	30代	40代	50代以上
利 用 目 的	土 地 ・ 住 宅 の 購 入	57.0	21.1	58.3	69.2	57.1
	自動車・家電品の購入	25.8	21.1	29.2	21.2	30.4
	教育資金以外の生活資金	11.9	10.5	12.5	17.3	7.1
	旅 行 ・ レ ジ ャ ー	6.6	21.1	0.0	5.8	5.4
	子や孫への教育資金	5.3	0.0	4.2	5.8	7.1
	自 分 の 教 育 資 金	4.0	10.5	12.5	0.0	1.8
	そ の 他	7.9	15.8	4.2	3.8	10.7
借 り 入 れ 先	銀 行	62.3	31.6	62.5	61.5	73.2
	月賦・クレジット会社	23.2	42.1	16.7	23.1	19.6
	住宅金融支援機構等 政 府 系 金 融 機 関	12.6	5.3	16.7	19.2	7.1
	銀行以外の金融機関	9.3	5.3	4.2	9.6	12.5
	勤 務 先	2.6	0.0	0.0	1.9	5.4
	そ の 他	4.6	15.8	8.3	1.9	1.8



平均手取り額は39万3千円

手取り額（予想を含む）は、「1～20万円」が最も多く、以下、「21～30万円」、「31～40万円」、「51～70万円」の順となった。

また、平均手取り額は39万3千円となった。年代別にみると、20代が28万9千円、30代が34万6千円、40代が43万3千円、50代以上が47万6千円となっている。



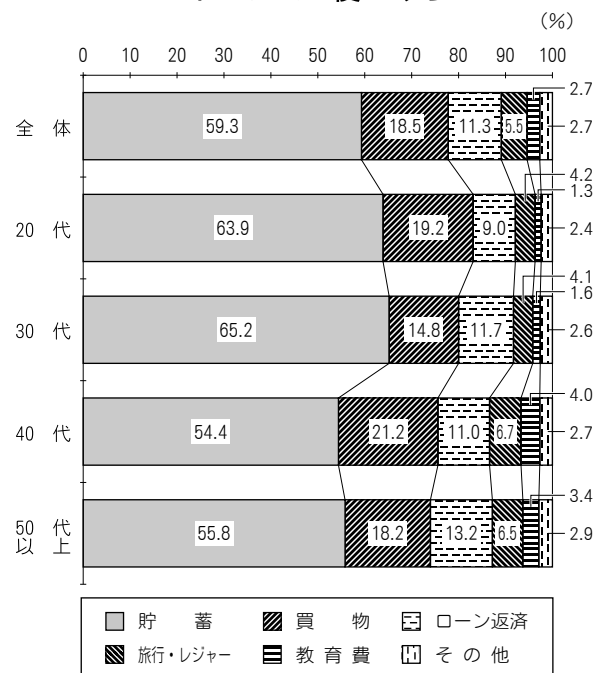
「貯蓄」の配分割合が6割弱を占める

ボーナスの使いみちは、「貯蓄」の比率が最も高く、以下「買物」、「ローン返済」、「旅行・レジャー」、「教育費」の順となった。

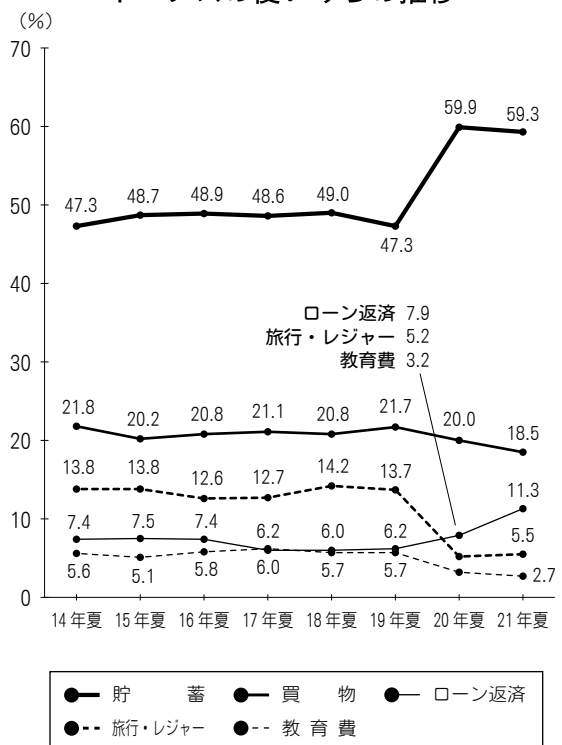
昨夏と比較すると、「ローン返済」、「旅行・レジャー」の比率が上昇した一方、「買物」、「貯蓄」、「教育費」は低下した。新型コロナウイルス感染症の収束時期が見通せないなか、依然として将来の備えとしての「貯蓄」への配分割合が高い水準を維持している。一方で「買物」への配分割合は低下しており、不要不急品の買物を控える動きが継続しているものと考えられる。

なお、年代別にみると、すべての年代で1位は「貯蓄」、2位は「買物」、3位は「ローン返済」となった。

ボーナスの使いみち



ボーナスの使いみちの推移



7 お 中 元

贈る予定のある人の割合が低下

今夏、お中元を贈る予定のある人は31.2%で、昨夏（36.3%）と比べて5.1ポイント低下した。

贈る件数は「2件以下」が最も多く、以下、「3～5件」、「件数未定」、「6～9件」・「10件以上」（同率）の順となった。昨夏と比較して、「10件以上」が同率となった以外はすべての項目で低下したものの、平均贈答件数は2.7件（昨夏2.7件）で昨夏と同水準になった。

年代別にみると、贈る予定のある人の比率は20代が21.0%（昨夏比+4.0ポイント）、30代が28.7%（同△4.0ポイント）、40代が31.0%（同△5.5ポイント）、50代以上が39.4%（同△5.3ポイント）となり、20代を除くすべての年代で低下した。

また、贈る件数は、すべての年代で「2件以下」が、最も多くなっており、年代別の平均贈答件数は、20代が2.9件、30代が2.3件、40代が2.6件、50代以上が2.9件となった。

平均単価は3,881円、平均予算は10,478円

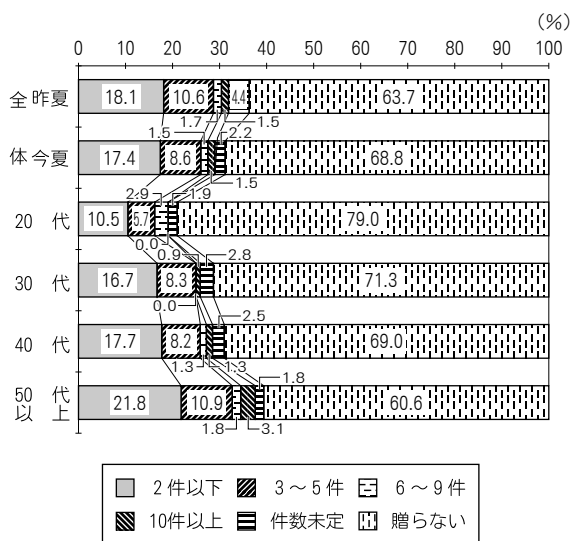
1件あたりの単価は、「3,000円程度」と「5,000円程度」が39.5%と最も多く、この両者で8割弱を占めた。

昨夏と比較すると、「5,000円程度」、「7,000円程度」、「10,000円程度」が上昇し、「2,000円程度」、「3,000円程度」、「15,000円程度」は低下したことから、平均単価は3,881円と、昨夏（3,553円）に比べて328円上昇した。

このように、平均贈答件数は同水準であったものの、平均単価が上昇したことから、平均予算総額は10,478円と昨夏（10,194円）に比べて284円上昇した。

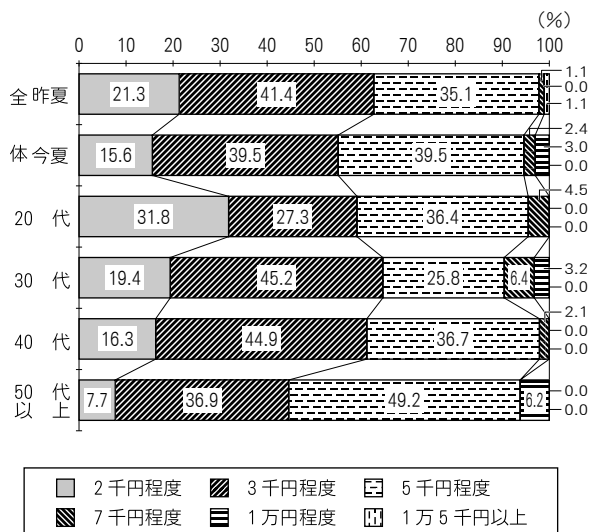
なお、年代別の平均単価は、20代が3,400円、30代が3,911円、40代が3,533円、50代以上が4,274円となっており、平均予算総額は、各々9,860円、8,995円、9,187円、12,395円となった。

お中元を贈る件数



お中元の相場

(1件当たり平均単価)



「ビール」、「ハム」の支持率が上昇

お中元に贈りたい商品（5品目まで選択）は、「ビール」（含むビール券、以下同じ）が最多で、以下、「ハム」、「果物」、「食用油」、「お菓子」の順となった。昨夏と比較すると、昨夏2位の「ビール」が16.5ポイント上昇し、1位となった一方、昨夏1位の「果物」は3位に後退した。また昨夏8位の「ハム」が11.3ポイント上昇して2位に順位を上げた一方、昨夏3位の「お茶・コーヒー」、5位の「麺類」が各々6.9、7.1ポイント低下し、7位、13位に後退するなど順位に変動がみられた。

支持率をみると、「食用油」、「直送生鮮品」、「缶詰」など12品目が上昇した一方、「清涼飲料水」、「ワイン」、「米・穀物類」など8品目が低下した。

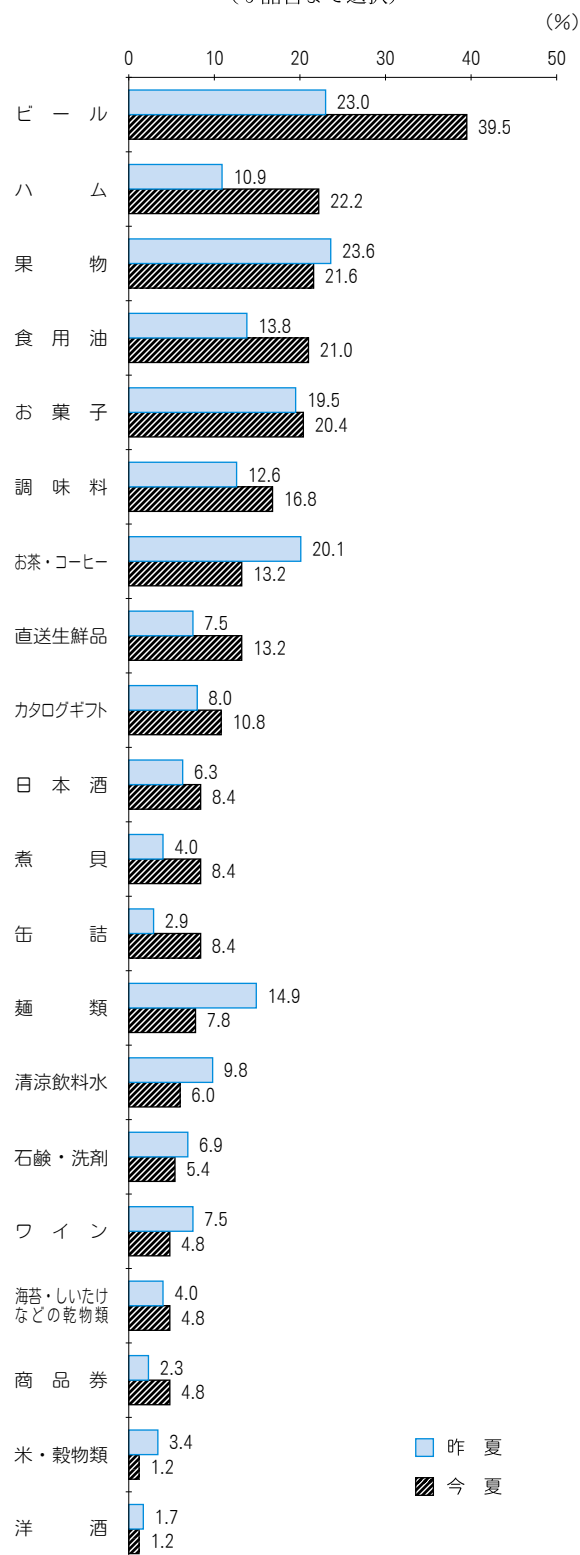
年代別にみると、20代の1位は「直送生鮮品」、20代以外は「ビール」が1位となっている。支持率を昨夏と比べると、20代で「直送生鮮品」の上昇、30代で「ビール」の上昇および「お茶・コーヒー」の低下、40代で「ハム」、「ビール」、「食用油」の上昇、50代以上で「ビール」の上昇および「麺類」の低下が目立っている。

今夏お中元に贈りたいもののベスト5（年代別）

順位	20代	30代	40代	50代以上
1	直送生鮮品	ビール (含むビール券)	ビール (含むビール券)	ビール (含むビール券)
2	ビール (含むビール券)	お菓子	ハム	果物
3	食用油 お菓子	食用油	食用油 果物	直送生鮮品 お菓子 ハム お茶・コーヒー カタログギフト
4		調味料		
5	調味料	ハム	調味料	

お中元に贈りたいもの

（5品目まで選択）



8 夏休みの過ごし方

「特に予定なし」の比率が6割を超える

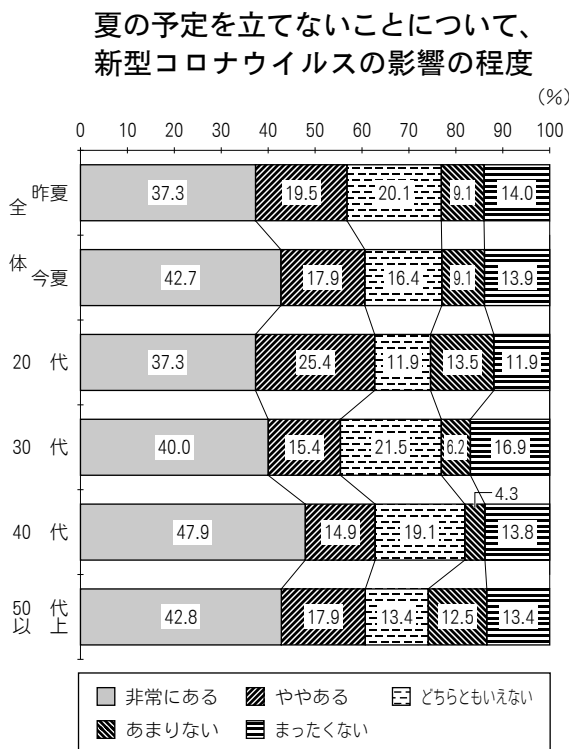
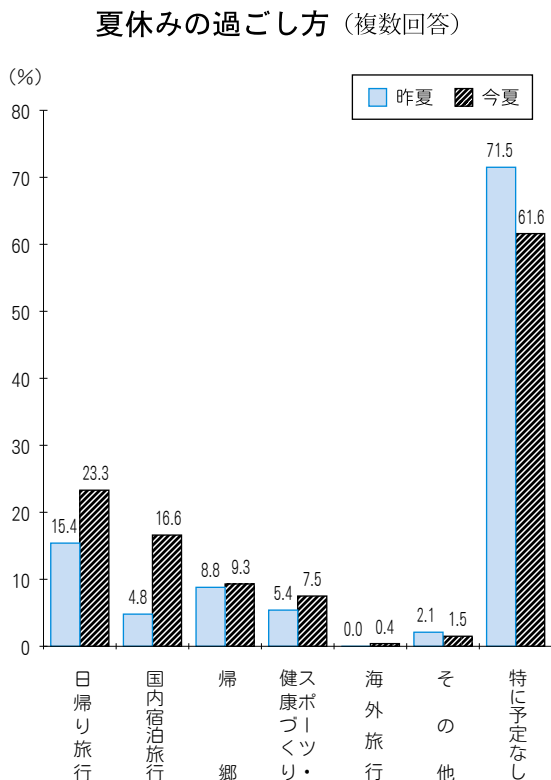
夏休みの過ごし方（複数回答）は、新型コロナウイルス感染拡大が続くなか、「特に予定なし」が61.6%と最多を占めた。以下、「日帰り旅行」、「国内宿泊旅行」、「帰郷」、「スポーツ・健康づくり」、「海外旅行」と続いた。

昨夏と比較すると、「特に予定なし」（昨夏比△9.9ポイント）が低下した一方、「国内宿泊旅行」（同+11.8ポイント）、「日帰り旅行」（同

+7.9ポイント）、「スポーツ・健康づくり」（同+2.1ポイント）、「帰郷」（同+0.5ポイント）、「海外旅行」（同+0.4ポイント）が上昇した。

「国内旅行」の宿泊日数をみると、「2泊」が41.6%を占め、以下、「1泊」（37.1%）、「3泊」（10.1%）となり、平均宿泊日数は2.0泊であった。

なお、「特に予定なし」と回答された方に対し、外出の予定を立てないことについて、新型コロナウイルス感染拡大の影響の有無を伺ったところ、「非常にある」（42.7%）、「ややある」（17.9%）との合計が60.6%を占めている。昨夏に引き続き、夏休みの外出を抑える傾向が窺われた。



夏休みの過ごし方（複数回答）

	全 体	20 代	30 代	40 代	50 代以上
日 帰 り 旅 行	23.3	25.7	27.8	25.3	17.0
国 内 宿 泊 旅 行	16.6	16.2	16.7	18.4	15.2
帰 郷	9.3	15.2	8.3	9.5	6.1
スポーツ・健康づくり	7.5	5.7	7.4	5.1	10.9
海 外 旅 行	0.4	0.0	0.9	0.6	0.0
そ の 他	1.5	1.9	0.9	1.9	1.2
特 に 予 定 な し	61.6	56.2	60.2	59.5	67.9

(特別調査) 感染収束後の動向

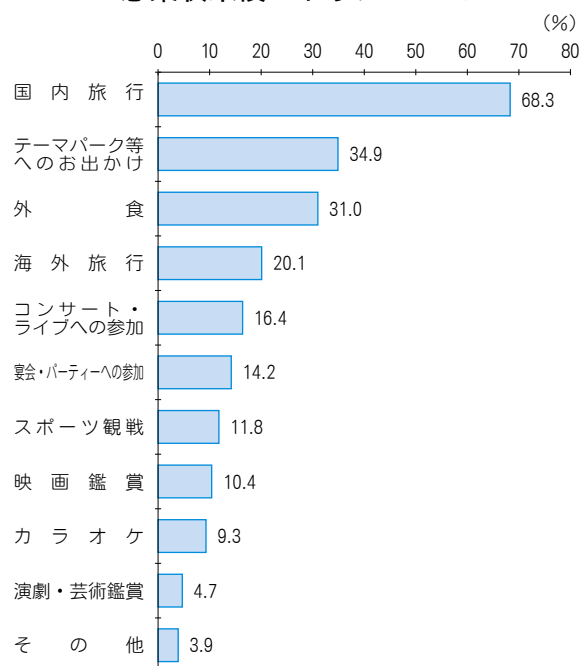
国内旅行を7割弱が希望

本調査では、新型コロナウイルス感染拡大の状況が収束した後、個人がどのような行動を希望しているかについて伺った。

収束後にやりたいこと（複数回答）については、「国内旅行」が68.3%と最多を占めた。以下、「テーマパーク等へのお出かけ」、「外食」、「海外旅行」、「コンサート・ライブへの参加」の順となった。新型コロナウイルスの感染拡大が始まって以降、緊急事態宣言などにより県を跨ぐ移動を控える傾向が続いており、感染拡大が収束した折には、気兼ねなく旅行に出かけたいという傾向が窺われた。

年代別にみると、すべての年代で「国内旅行」が1位となっている。2位は20代、30代で「テーマパーク等へのお出かけ」、40代以上は「外食」となった。3位は20代が「海外旅行」、30代が「外食」、40代以上は「テーマパーク等へのお出かけ」となった。

感染収束後にやりたいこと



感染収束後にやりたいことベスト5（年代別）

順位	20代	30代	40代	50代以上
1	国内旅行	国内旅行	国内旅行	国内旅行
2	テーマパーク等へのお出かけ	テーマパーク等へのお出かけ	外食	外食
3	海外旅行	外食	テーマパーク等へのお出かけ	テーマパーク等へのお出かけ
4	コンサート・ライブへの参加	海外旅行	スポーツ観戦	海外旅行
5	外食	宴会・パーティーへの参加	コンサート・ライブへの参加	映画鑑賞

キャッシュレスな毎日を。

お買い物やお金の管理がスムーズに。

山梨中銀 Visa デビット

—マイデビット—

MyDebit

YAMANASHI TARO

GOOD MONTH/年
THRU 月
有効期限 00/00



Let's cashless!

- 現金よりも便利、安心
- アプリで収支が見える
- お買い物のたびにスグに口座から引き落とし
- 国内・海外のVISA加盟店で使える
- お得なキャッシュバック特典付き
- 15 歳以上(中学生を除く)からご利用可能！審査不要！

※初年度年会費は無料です。次年度以降、年会費 1,100 円(税込)が必要となりますが、一定の条件により無料となります。(2020 年 7 月 1 日現在)

Web での
お申し込みは
こちらから



山梨中央銀行

VISA